（別紙4）　　2020 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2277100927		
法人名	社会福祉法人峰栄会		
事業所名	さぎの宮グループホーム		
所在地	浜松市東区小池町３８－１		
自己評価作成日	令和3年2月26日	評価結果市町村受理日	令和３年５月１０日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1－70　静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の方針である「共に生きる」「個別性」「自尊心を保ち社会性を回復する」「地域に根ざした施設」を念頭に置き、入居者一人一人が自分らしく生活できるようなケアを目指しています。また、4階にあるグループホームであるため、天気のいい日には富士山が見えたり、地域のお祭りの花火が見え、景色がいい場所となっております。現在、新型コロナウイルス感染症が流行っており、入居者を連れての外出支援はできておりませんが、グループホームの壁を利用し、季節の壁画をして季節を楽しめるように働きかけております。職員全員が出退勤時に気を付けていることは、入居者一人一人に挨拶をすることと「あるがとうがざいます」と感謝の言葉を伝える事です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

総合福祉施設の4階に位置するグループホームである。管理者は着任後まだ一年経たないが、「楽しく毎日過ごせるような環境作り」や「以前出来ていたことが長くできるように」「個別性を大事にその人らしく生活してもらいたい」との思いがある。コロナ禍のため直接確認できてないが、ベランダや屋上は常に出入り可能な環境である。以前は屋上庭園で花や野菜を植えていたが、現在はできていない。外出ができていないため、事業所としては「外気浴や散歩を兼ねて庭園の廻りを散歩したい」「庭園の環境を整え活用したい」との思いがある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざした施設」を基本理念・基本方針を理解し、事業計画や目標管理シートを作成し、実行している。また、地域のお店に買い物へ行き、認知してもらえるよにしている。	毎月の勉強会とサービス会議において基本理念や基本方針の内容を確認している。個人の目標管理シートを作成し、法人職員目標・業務目標・自己啓発目標を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の中で、入居者が地域の行に参加したり、買い物へ出向くことが出来ない状況ではありますが、職員が週に2回買い物に出かけるようにしている。	現在はコロナ禍により、いろいろな行事が中止となり参加することがない。今までは自治会の納涼祭に参加したり、祭りの練りが事業所に来てくれたり、自治会の発表会に制作品を展示したりしていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度までは、介護者教室を開催し、認知症について地域の方に向けて発信しておりましたが、今年度は開催出来ておりません。事業所では、認知症についての勉強会を開催しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催にて、運営推進会議を開催し、行事や事故、感染症、防災訓練、入居者の様子を伝えている。	書面での開催を行っている。自治会の前会長と現会長、家族や入居者、地域包括支援センターなどの出席がある。以前の入居者家族が運営推進会議委員となって会議に出席している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書面開催の運営推進会議会議録は市役所の担当へ郵送している。	議事録を市役所担当課に郵送している。現在、生活保護受給者が入居しているため、市担当課とは密に連絡を取るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」をしている。施設内で身体拘束適正化委員会があり、毎月身体拘束についての勉強に取り組んでいる。	身体拘束適正委員会があり、年3回行動制限禁止月間があり、「特に身体拘束にあたらないよう気をつけましょう」という月になっている。事業所は4階にあり、ベランダや屋上菜園には自由に出入りができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会があり、毎月虐待についての勉強に取り組んでいる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人がついている入居者がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時には、利用者や家族が納得するまで話しを行うようにしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在、運営推進会議を書面で開催しているため、意見を聞く機会がないが、電話やオンライン面会時に家族の意見を聞いている。また、利用者の意見は、日々の中で聞くようにしている。	書面開催の運営推進会議ではあるが、家族の心配事などの質問をもらい返答している。「夜間一人の時に災害があったら、連絡のために利用者から離れてしまうのはどうか」との意見があり、携帯での連絡方法に変更した。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会やサービス会議の中で意見交換をしている。また、年3回の面接で話しをしている。	目標管理シートを年度初めに作成し、９月、２月、３月末に3回管理者と面談を行っている。年度末には管理者との個人面談も行っている。現在浴槽に入れない方が数名いるが、どのようにしたら入浴できるかの話し合いを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや人事考課、HEK1990を活用し、やりがいや各自が向上心を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修に参加をし、学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度、親睦旅行や忘年会は開催せず、交流の場が少なかった。施設間交流や中堅職員を開催し、一部では、交流をしている所もあった。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時と日々の会話の中で、希望・要望を聞き、安心した生活が出来るよう関係づくりをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の希望・要望を伺い、安心して利用してもらえるように関係づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の経歴や家族の話しを聞き、その時必要なサービスを一緒に考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に生きる」という基本方針を理解し、入居者のできないことをサポートし、利用者のできることに目を向けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	オンライン面会時には、本人の現状を伝えるようにしている。また、問題が起こった時には、連絡をし、報告や相談をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年度までは、馴染の美容院へ出かけたりしていましたが、今年度は、コロナ禍の為、外出支援が出来ませんでした。	コロナ禍で買い物や外食などに出かけることはできていない。現在はオンライン面会を平日の午後に行っている。家族が電話で利用者の様子を聞いてくることもある。オンライン面会は時間が限られているため、もう少し余裕のある面会時間にしたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係見て、座席を決めたり、寮母室前の椅子で利用者同士が話せるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎年、干支の飾り物を寄贈して下さったり、運営推進会議に参加して下さるご家族もいるため、必要に応じて相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、思いを伺うようにしている。会話が上手くできない利用者は、表情を見て、判断するようにしている。行事等の前には、一人一人意見を伺っている。	敬老会や納涼祭、クリスマス会の前には利用者にどのようなものが食べたいか、どのような催し物をやってほしいかなどを確認して、出来るだけ希望に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまで受けていたサービス機関から情報をいただいたり、家族から話しを聞いたものを、個人ケースに残し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	サービス会議で本人の今の状態を話し合い、現状の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス会議で話し合った内容や問題が起きた時にはその都度話し合いを行ってい、介護計画を行っている。	毎日の様子を日誌に記入し、パソコンに打ち込んでいる。パソコン内は全てに連動しており、職員全員が利用者個々の内容確認が出来るようになっている。職員間で話し合いを行い、計画を作成して家族や本人に確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に記録を残し、毎日の業務開始前に確認をしてから業務に入っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態により、その時々に必要なサービスを提供できるようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	週に2回地域のお店に買い物に出かけている。また、施設に来寮される、美容院に2ヶ月に1度参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設かかりつけ医に定期的に受診をししている。また、状態が変わった時には連絡をし、相談している。また、他医療機関に係っている利用者に関しては、家族が対応してくれているため、場合によっては職員が送迎をするなどの支援をしている。	内科は全員かかりつけ医に診てもらっている。夜間緊急時に連絡ができるようになっており、それ以外は併設する特別養護老人ホームの看護師に連絡している。他医院の受診は家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設全体の申し送りで変化のある人については報告をしている。座薬や浣腸を依頼し、施行してもらったり、必要に応じて処置などをしていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を取り、本人の状態の把握に努め、なるべく早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に意向を聞いたり、重度化指針について説明をし、同意を得ている。重度化や終末期には、利用者や家族と話し合い、意向に添えるように努めている。	指針や説明書があり看取りの準備はできているが、ここ数年は事業所での看取りはない。家族との話し合いを含め、職員の看取りに関する勉強会も実施していきたいとの思いがある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを確認したり、防災訓練でAEDの使用方法等を確認し、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の防災訓練で行っている。また、9月は地震想定の防災訓練を行い、11月には夜間想定の火災の訓練を行っている。	毎月2回の防災訓練を行っており、AED訓練や非常食作り、スモーク訓練なども行っている。備蓄は7日分を法人本部で管理している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別の声を掛けをするようにしている。また、場合によっては、個々の居室で話しを聞くようにしている。	その人に合った声掛けを行うように心がけており、「トイレ」といって分からない人には「お便所」と話しかけたり、なかなかお尻の上がらない人には「お尻をあげて立っていただけませんか」と言って立ってもらうようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択するもの場合は、2択にして選んでもらい、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビを見たり、利用者同士で話しをしたり、居室で臥床して過ごしたり、本人のペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内の美容院を2ヶ月に1度利用している。行事の際には、ペンダントをして飾っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の調理では、出来ることをしてもらい、職員と利用者が一緒になって行っている。食器も個人の物はできる人にはやってもらっている。	主菜のみ法人の厨房で作っている。ご飯、味噌汁、副菜は事業所で作り、盛り付けも利用者と一緒に行っている。歩ける人は自分のお膳をテーブルに持って行き、片付けも自分で行ってもらっている。食器洗いを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は毎日業務日誌に記録している。また、その人に合った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、起床時と就寝時の口腔ケアを行っている。義歯は毎晩ポリデントを行っている。利用者によっては、毎食後にモンダミンと歯磨きを実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日排泄票を記載し、3かに1度月間排泄表に記載をして、利用者ごとにまとめている。排泄表を見ながら、必要に応じて、排泄パターンの見直しをしている。	排泄表を作成し、パターンの把握を行っている。ほとんどの人は自力でトイレに行かれるため、声掛け誘導のみ行っている。水分は1300～1500mlを目標に飲んでもらっている。朝、起きがけのコップ一杯の水分摂取を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、ヨーグルトとヤクルトを提供し、排便の促しをしている。排便がなかなか出ない利用者に関しては、かかりつけ医と相談をし、下剤や座薬、浣腸を検討している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回は行えるようにしている。また、本人が希望をしない時には、検討をするようにしている。また、入浴時には、入浴剤を使用し、入浴を楽しめるようにしている。	週2回の入浴を心がけており、入浴時間の制限はしていない。声掛け時に拒否する人には時間や曜日をずらすようにしているが、出来るだけその日に入ってもらうようにしている。毎日入浴剤を入れて気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の状態に合わせ、午後には臥床して過ごす方がいる。また、足が冷たい利用者には、湯たんぽを使用し、温かく寝られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医から処方された薬通りに服薬を行っている。処方箋や服薬マニュアル通りに行うようにマニュアルの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方が出来ること出来ないことを把握し、出来ることをお願いしやっていただく。また、食事時、ご飯が進まない人には、ふりかけを対応したり、チョコの好きな方には、おやつにチョコのお菓子が提供できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診以外の外出支援はできておりません。	現在コロナ禍により外出支援を行っていないが、以前は事業所周辺を散歩したり、近所のスーパーマーケットまで散歩がてら買い物に出かけていた。	4階ではあるがベランダや屋上庭園に自由に出入り可能である。現在は、庭園に花や野菜を植えたりできていないが、気分転換や体力向上にも庭園を有効活用することが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に外出することごなかったため、お金を直接所持したりはしていないが、本人が希望するものは可能な限り購入するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をすることはないが、家族等からかかってきた電話で利用者が話すこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の空間は天井が高くなっており、広い空間になっている。また、天窓や大きな窓であるため、天気のいい日には日の光が入り、明るい空間となる。	職員と利用者との共同制作の壁紙が貼られている。花紙で作った桜の花びらや枝垂桜、折り紙で作ったひな人形を壁に貼っている。出来るだけ季節がわかるような壁紙を制作している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寮母前の椅子や食堂の空いた椅子に座って思い思いに過ごせるようにしている。また、居室で臥床して過ごしたり、一人一人の入居者に合ったように過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを自宅から持ち込んでもらい、居室を居心地のいい空間になるようにしている。	使い慣れたものを持ってくる方は少ないが、ハンガーラックやテレビ、ラジオ、CDラジカセを持ち込んでいる。以前集めていた大小の七福神の人形を持ち込み飾っている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりが設置されている。また、ベッドの高さは本人に合わせて調節している。トイレには、目印に花を飾っている。		